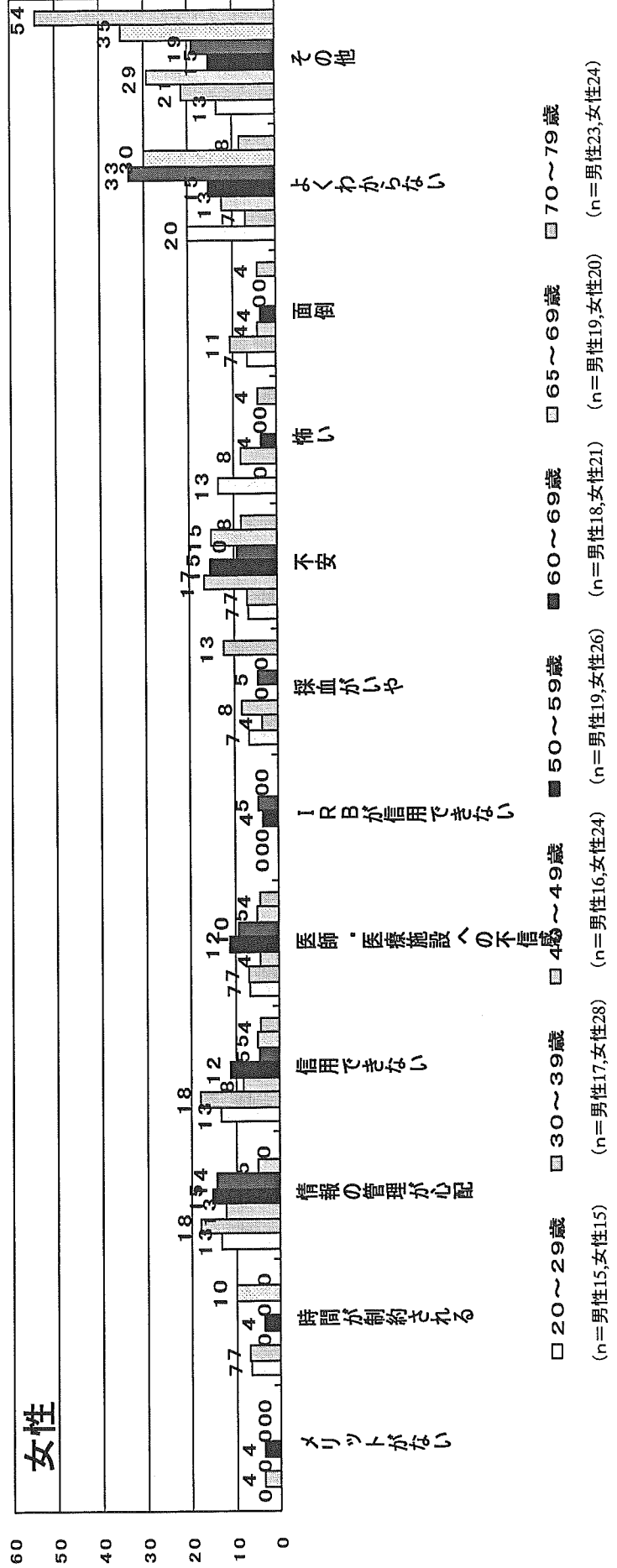
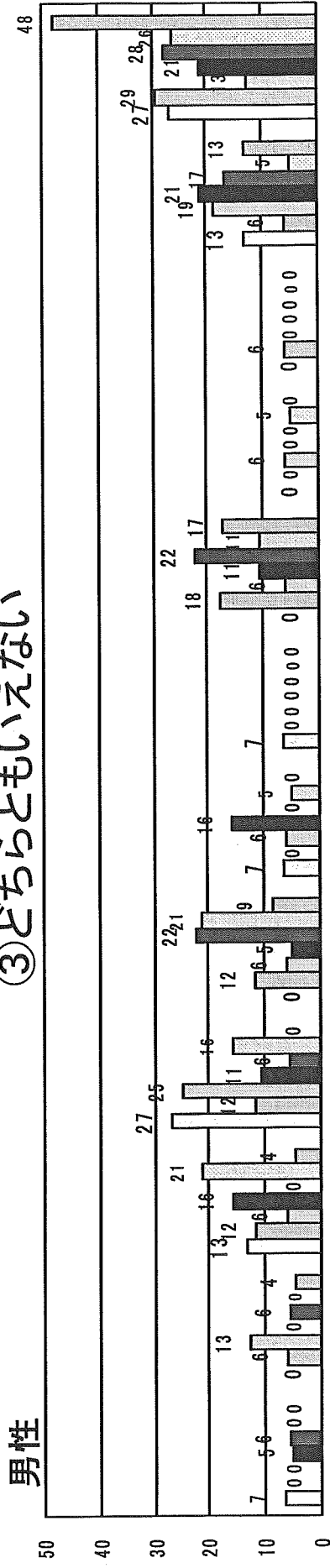


Q14 「ファーマコゲノミクス」の研究への参加意向の理由

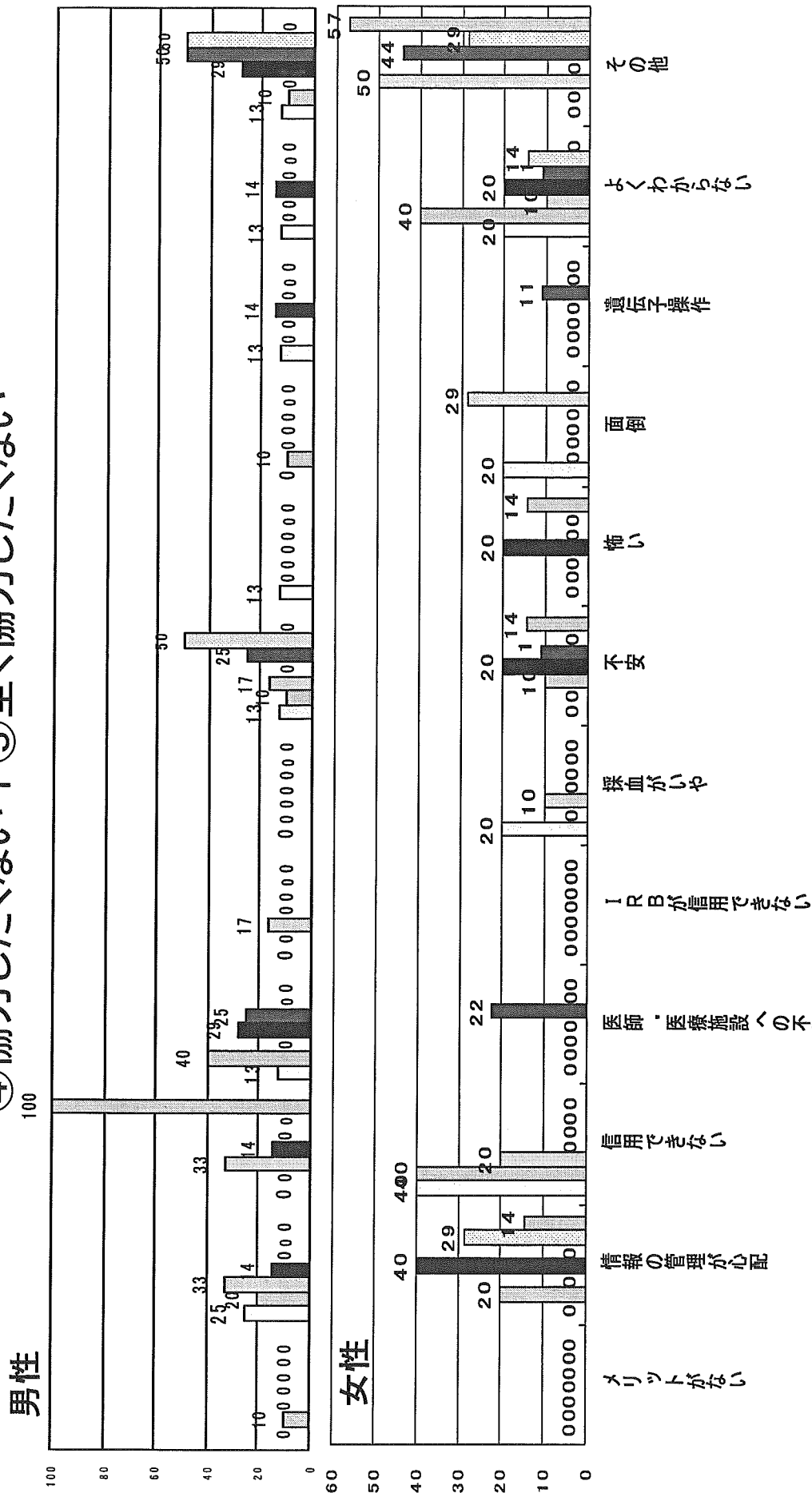
③どちらともいえない



□ 20~29歳 (n=男性15,女性15) □ 30~39歳 (n=男性17,女性28) □ 40~49歳 (n=男性16,女性24) □ 50~59歳 (n=男性19,女性26) □ 60~69歳 (n=男性18,女性21) □ 70~79歳 (n=男性23,女性24)

Q14 「ファーマコゲノミクス」の研究への参加意向の理由

④協力したくない+⑤全く協力したくない



□ 20~29歳 (n=男性8,女性5) □ 30~39歳 (n=男性10,女性5) □ 40~49歳 (n=男性6,女性10) □ 50~59歳 (n=男性7,女性5) □ 60~69歳 (n=男性4,女性9) □ 65~69歳 (n=男性2,女性7) □ 70~79歳 (n=男性1,女性7)

Q13 メッセージCを提示することによる協力意向の変化

(人数)

協力意向が上がった人
(87人)

協力意向が下がった人
(61人)

		Q13					
		TOTAL	ぜひ協力したい	協力したい	どちらともいえない	協力したくない	全く協力したくない
20~69歳		577	56	253	199	51	18
Q	1	55	41	11	2	1	0
0		225	13	183	29	0	0
		228	2	55	156	14	1
		54	0	4	12	35	3
		15	0	0	0	1	14

		Q13					
		TOTAL	ぜひ協力したい	協力したい	どちらともいえない	協力したくない	全く協力したくない
65~79歳		234	22	109	86	12	5
Q	1	22	17	5	0	0	0
0		105	5	84	16	0	0
		87	0	17	63	6	1
		14	0	3	6	5	0
		6	0	0	1	1	4

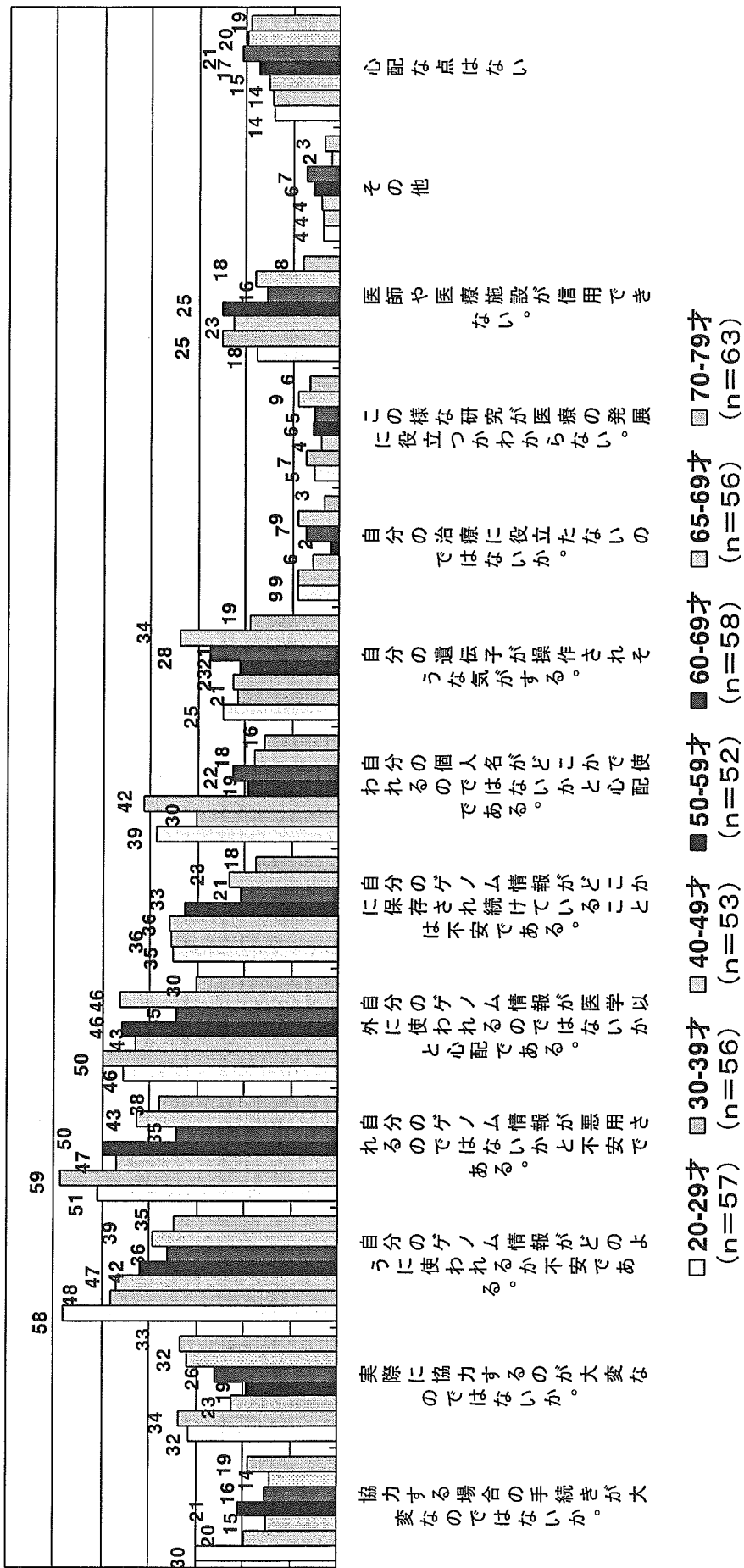
協力意向が上がった人
(33人)

協力意向が下がった人
(28人)

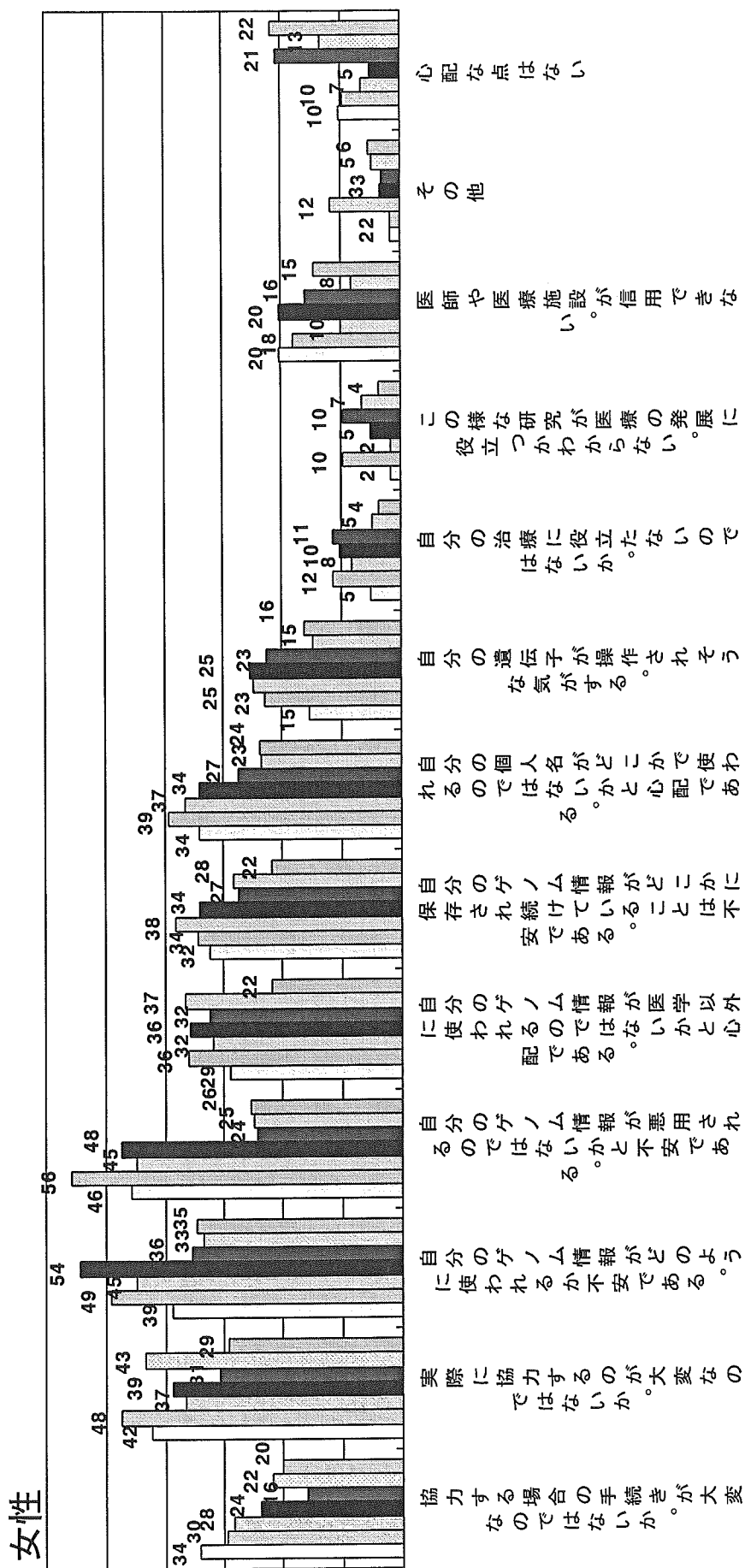
Q15 この研究に協力する場合、心配な点は何ですか。(複数回答)

ーメッセージCを読んでー

男性



Q15 この研究に協力する場合、心配な点は何ですか。(複数回答)
 ーメッセージCを読んでー



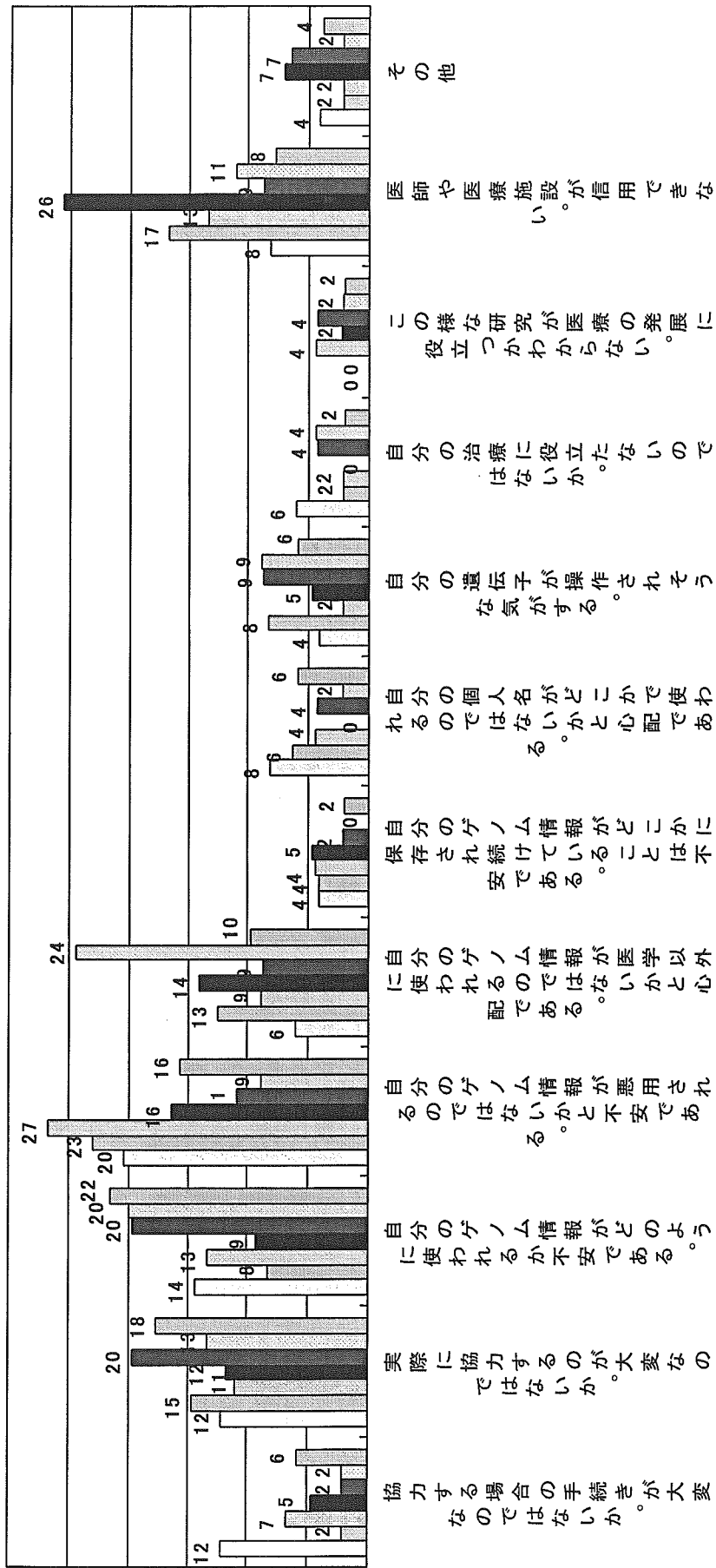
□ 20-29才 (n=59) ■ 30-39才 (n=61) ▨ 40-49才 (n=60) ■ 50-59才 (n=59) ■ 60-69才 (n=62) ■ 65-69才 (n=60) ■ 70-79才 (n=55)

Q16 この研究に協力する場合、最も心配な点は何ですか。

—メッセージCを読んで—

(心配な点が無い人を除く)

男性



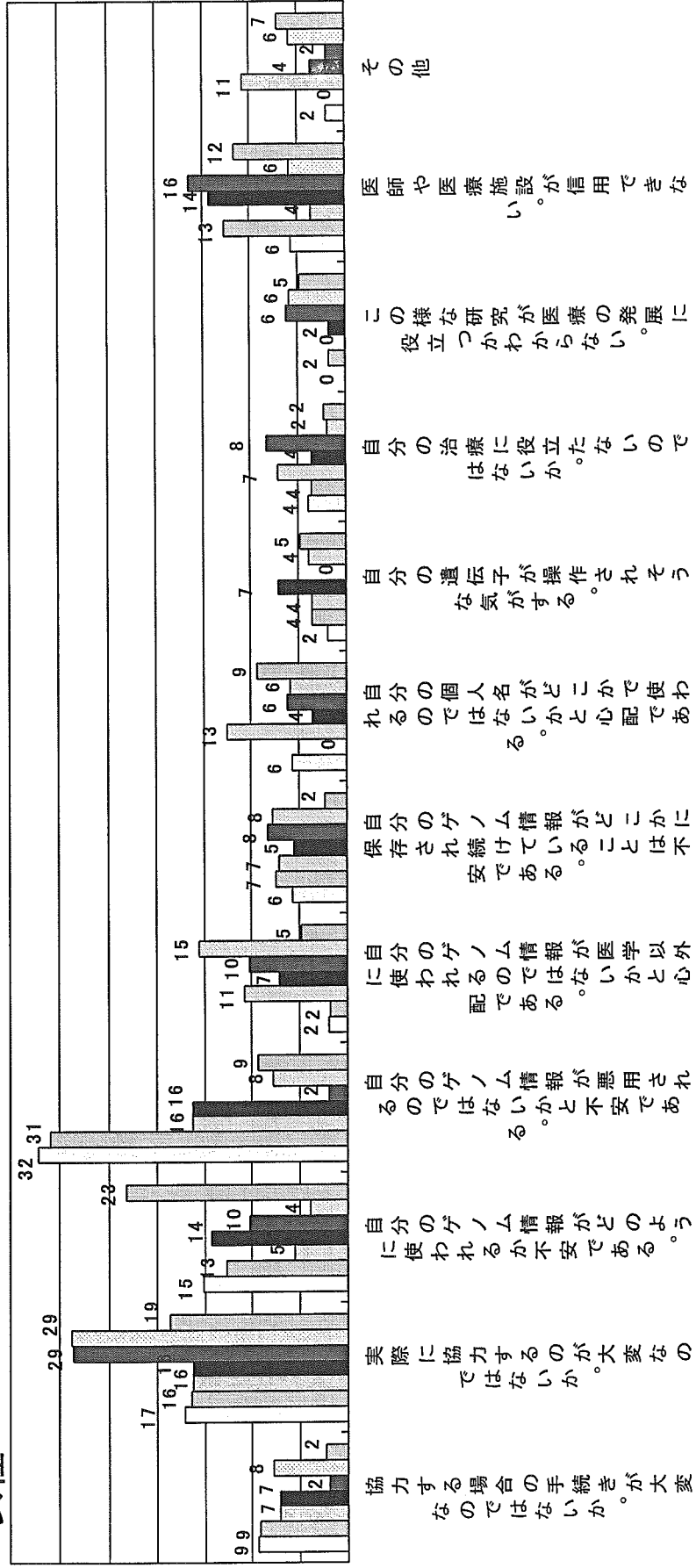
20-29才 (N=49)
 30-39才 (n=48)
 40-49才 (n=45)
 50-59才 (n=43)
 60-69才 (n=46)
 65-69才 (n=45)
 70-79才 (n=51)

Q16 この研究に協力する場合、最も心配な点は何ですか。

—メッセージCを読んで—

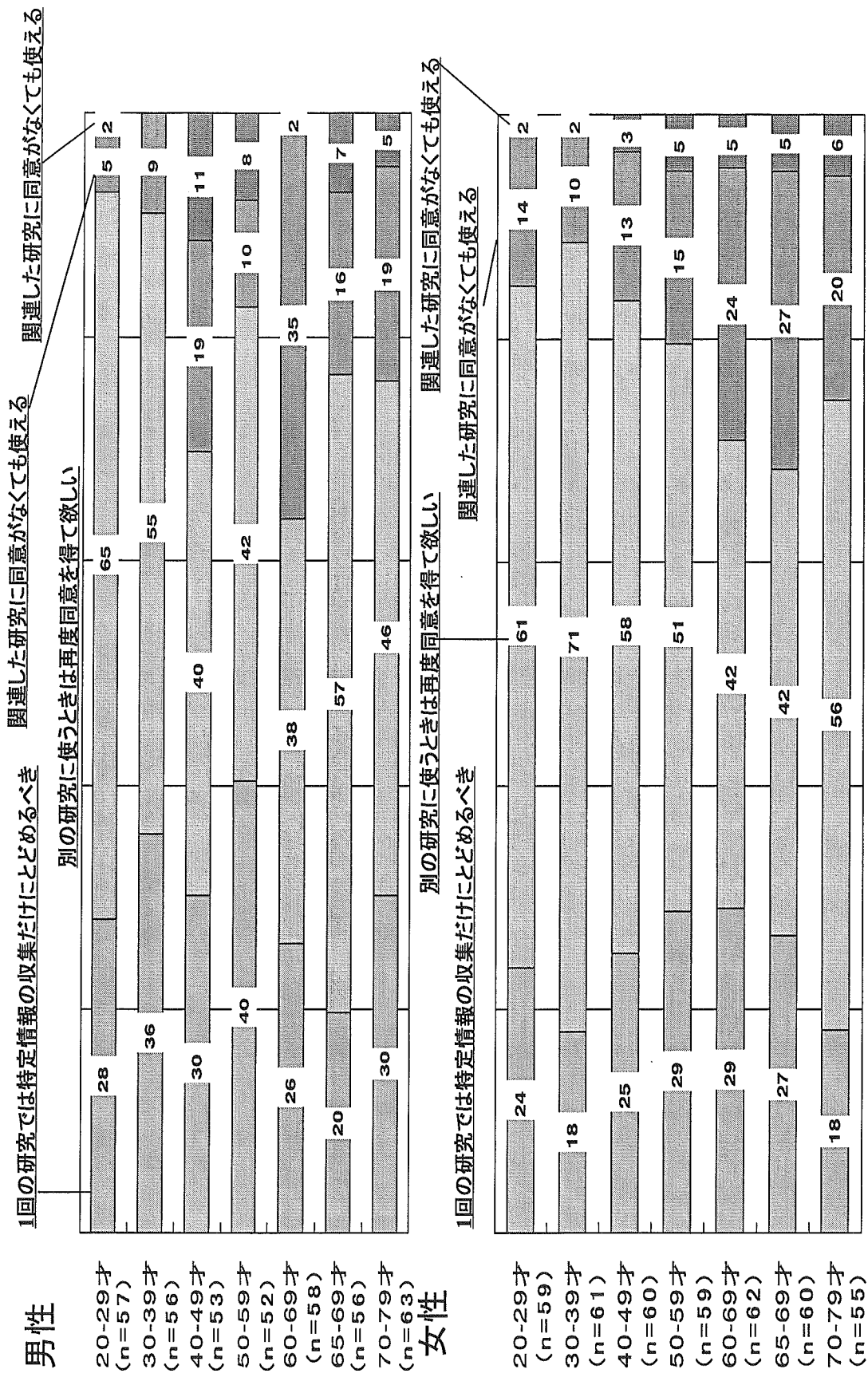
(心配な点が無い人を除く)

女性



□ 20-29才 (n=53) ■ 30-39才 (n=55) ▨ 40-49才 (n=56) ▩ 50-59才 (n=56) ▪ 60-69才 (n=49) ▫ 65-69才 (n=52) ▬ 70-79才 (n=43)

Q17 あなたから提供された血液から得られたサンプルを、別の研究に利用したい時はどのような手続きで進めたいと思いますか。



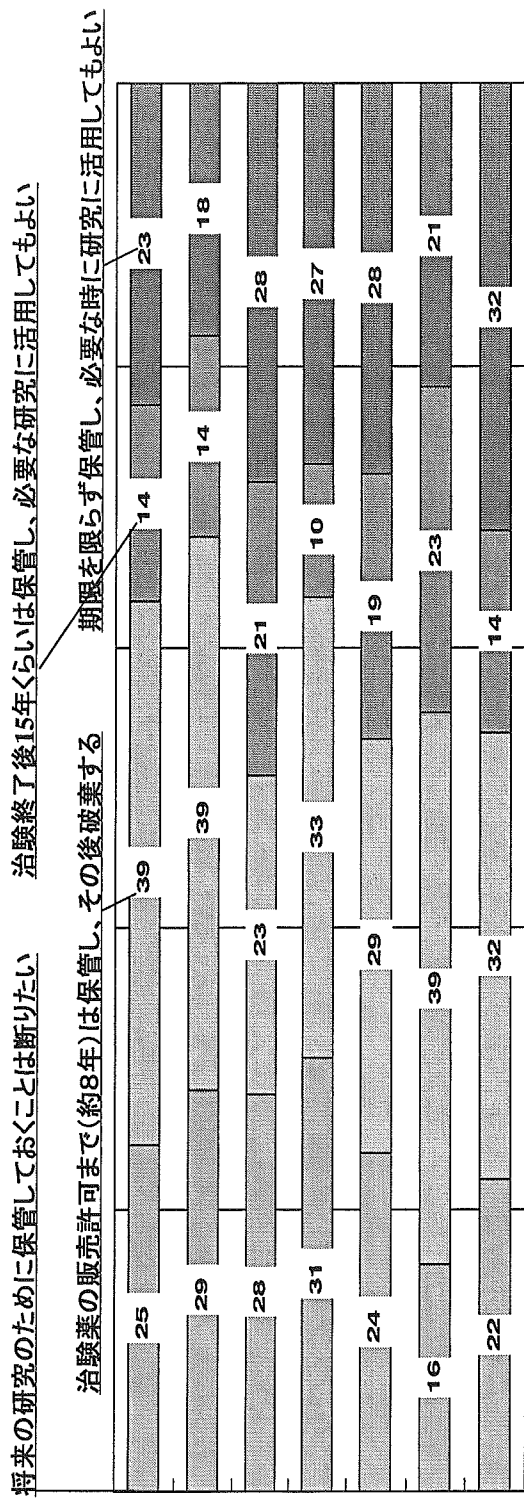
メッセージD

新しいクスリが開発されて、多くの患者さんに安心して使用していただくためには、発売前にそのクスリの試験が必要です。新しく開発されたクスリを患者さんに使用していただき、安全かつ人の病気に有効であるかどうかの試験を何段階かにわたって行います。この試験を「治験」といいます。そして、それらの結果をもとに厚生労働省に申請し、販売の承認を得ることになります。

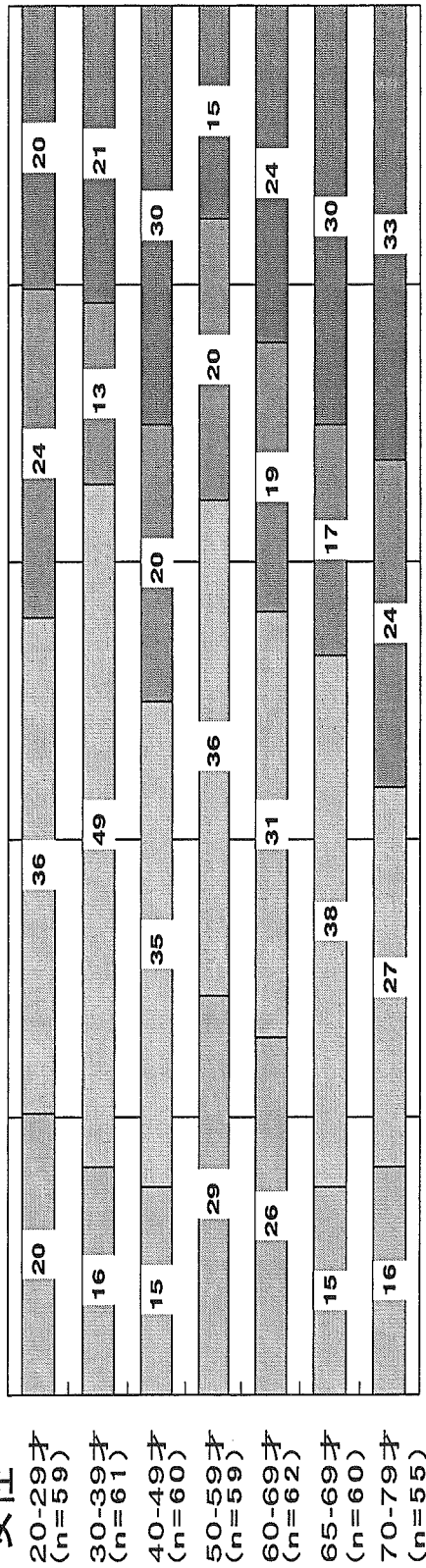
通常、1つのクスリの治験に参加する患者さんの数は、全体でおおよそ1,000人とされています。しかし、クスリが販売され、実際に患者さんに使われた時は1万人に1人という確率でおこる重い副作用もあります。治験に参加した時に提供していただいた血液などを保存しておき、予期せぬ副作用がおきた時などに、あらためてファーマコゲノミクス研究に使用することも考えられます。それにより、そのクスリがさらに安全に使えるようになる可能性があります。

Q18 あなたが治験に参加したと仮定して、上記メッセージDの文章をご理解していただいたうえで、治験に参加した時に提供していただいた血液などを保存しておくことについてのどのように思われますか。

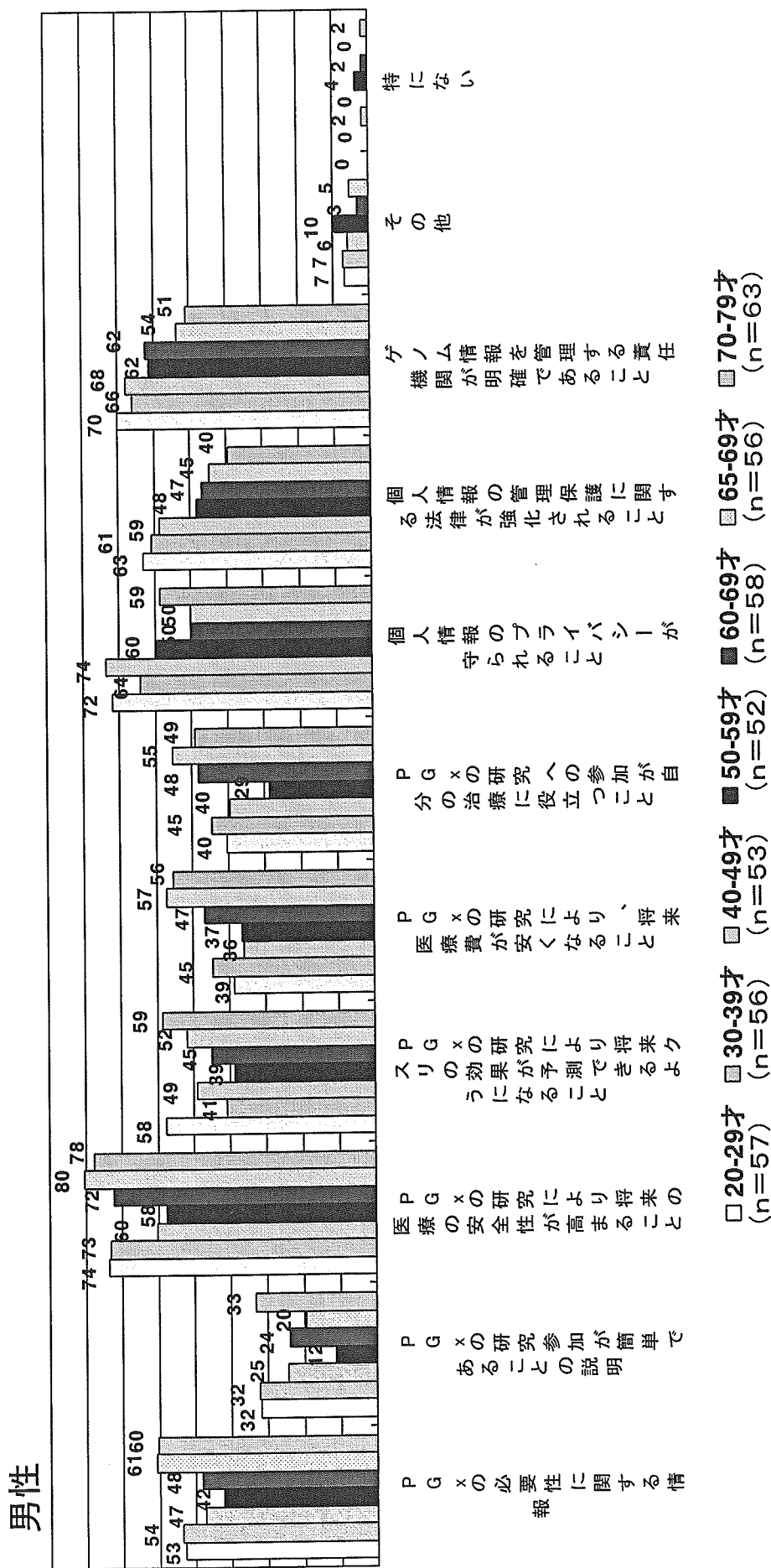
男性



女性

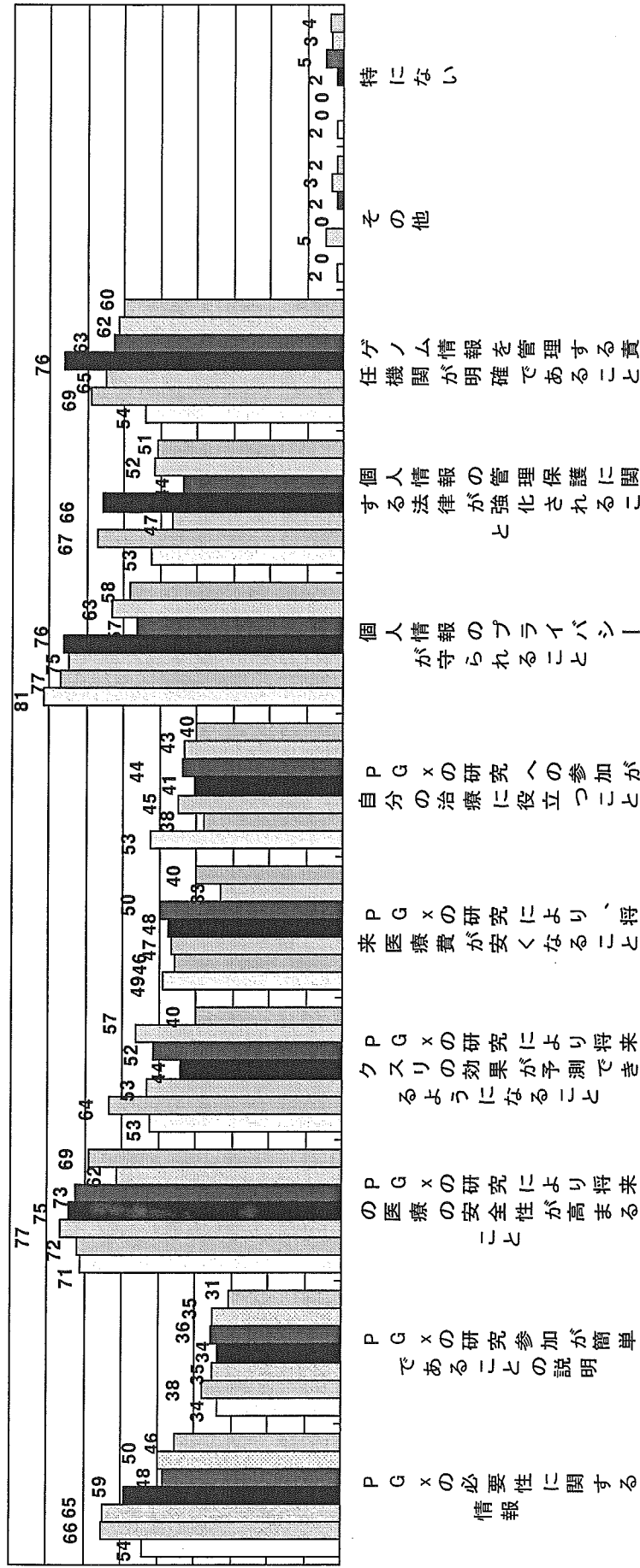


Q19 今後、「ファーマコゲノミクス」の研究を支援していく上で、あなたにとって重要だと思われる環境は、つぎのうちどれですか。
(複数回答)



Q19 今後、「ファーマコゲノミクス」の研究を支援していく上で、あなたにとって重要だと思われる環境は、つぎのうちどれですか。
(複数回答)

女性

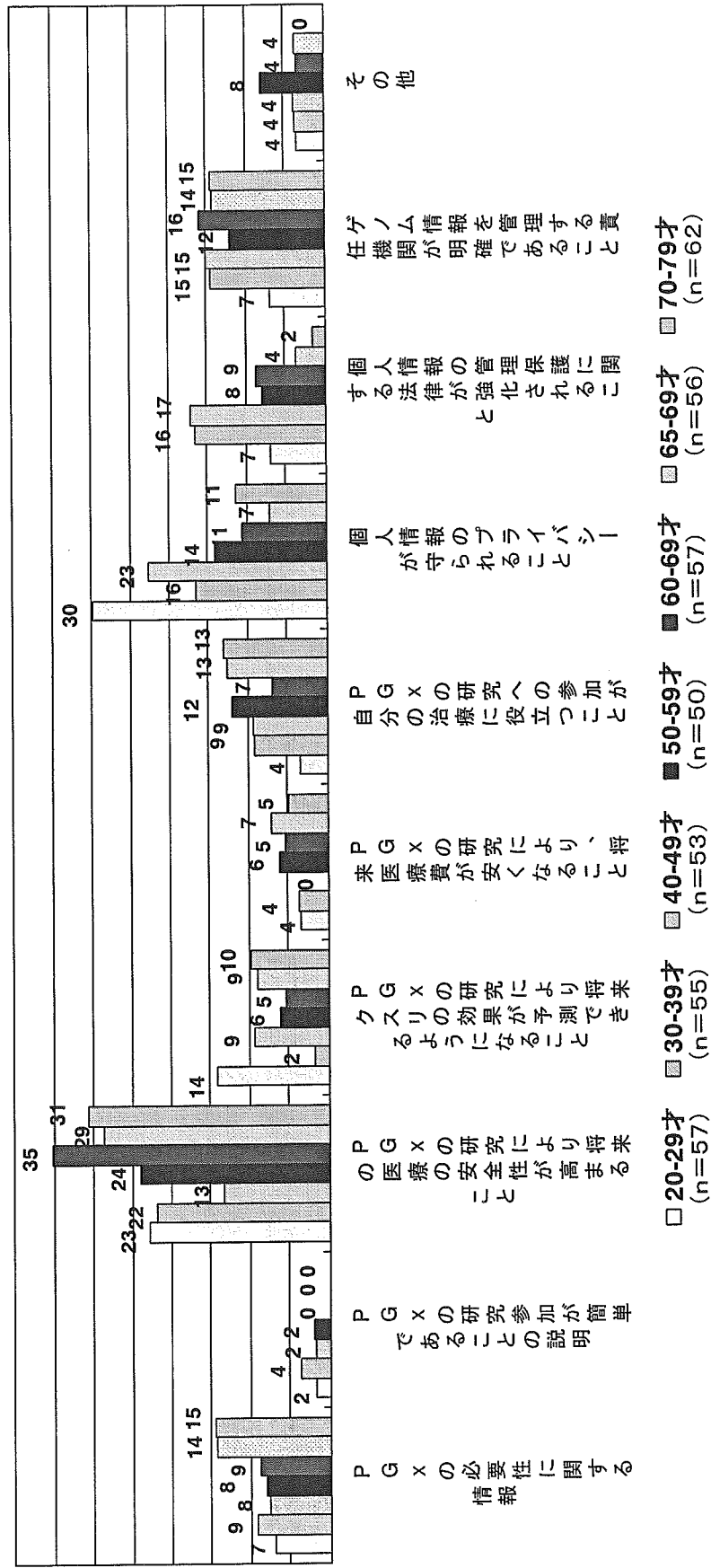


□ 20-29才 (n=59) ■ 30-39才 (n=61) ■ 40-49才 (n=60) ■ 50-59才 (n=59) ■ 60-69才 (n=62) ■ 70-79才 (n=55)

Q20 今後、「ファーマコゲノミクス」の研究を支援していく上で、あなたにとって最も重要だと思われる環境は、つぎのうちどれですか。

(ひとつも無い人を除く)

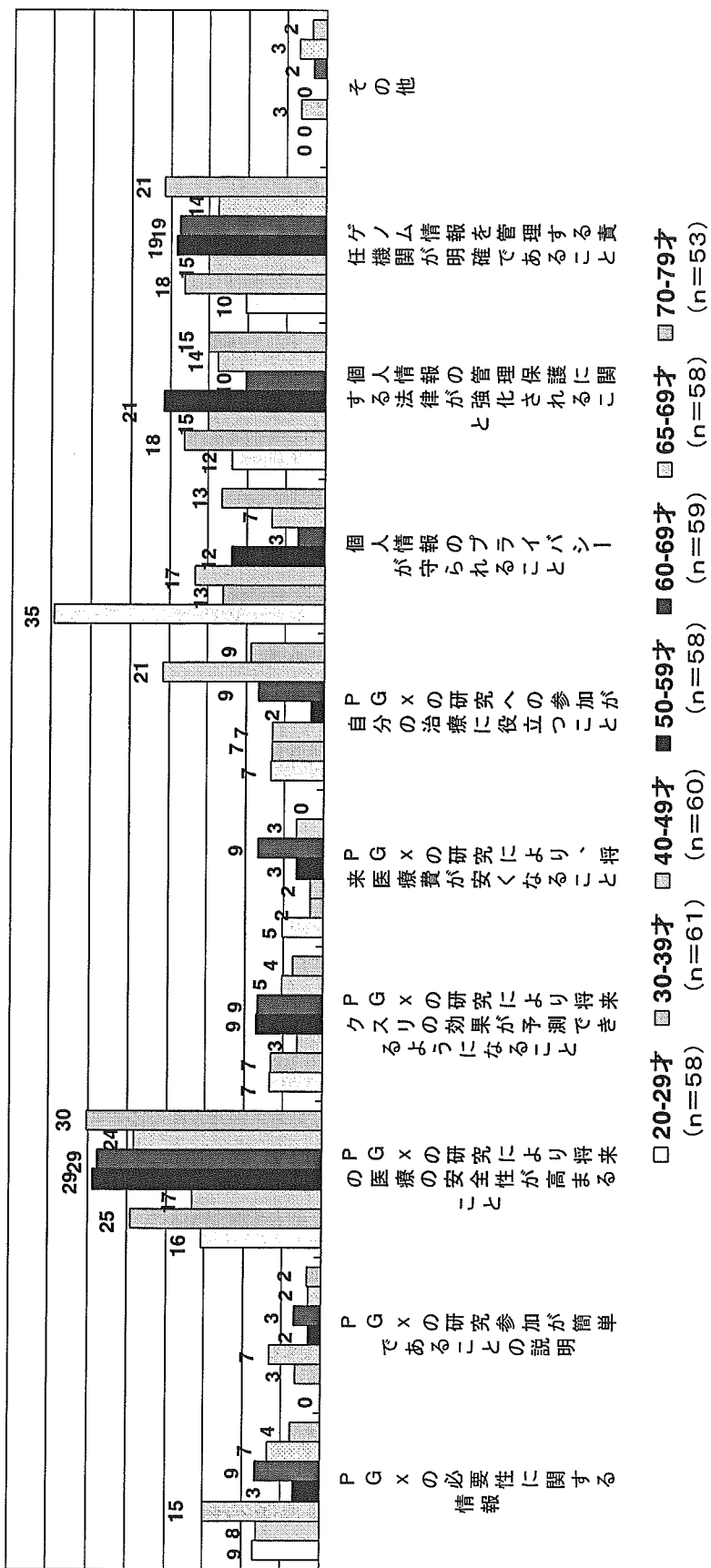
男性



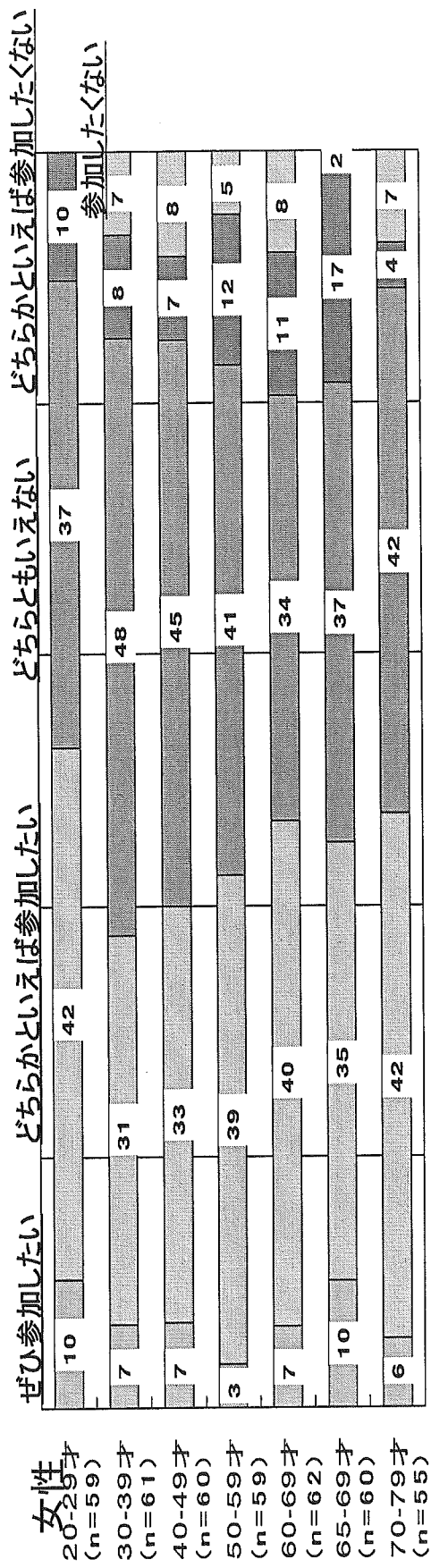
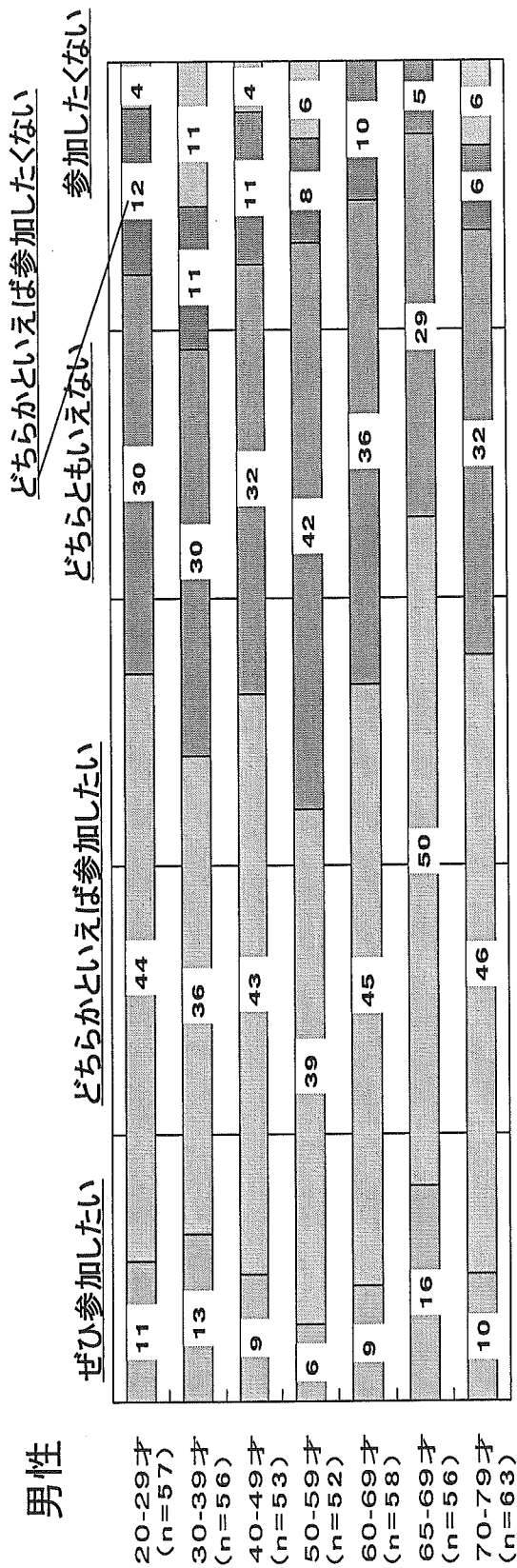
Q20 今後、「ファーマコゲノミクス」の研究を支援していく上で、あなたにとって最も重要だと思われる環境は、つぎのうちどれですか。

(ひとつもない人を除く)

女性

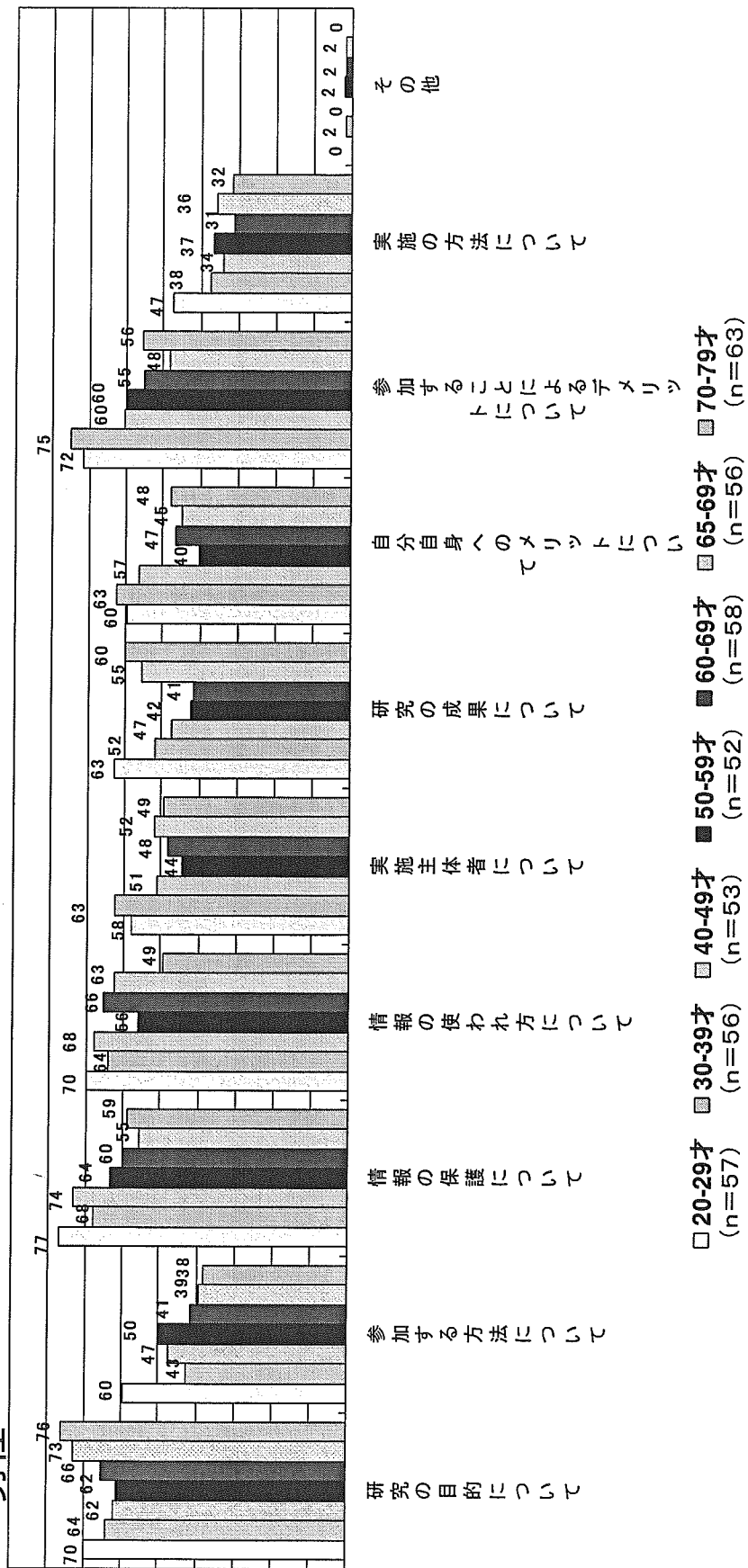


Q21 「ファーマコゲノミクス」の研究に関して、もっと情報があれば参加したいと思いますか。



Q22 今後「ファーマコゲミクス」の研究に参加するためにはどんな情報が必要ですか。(複数回答)

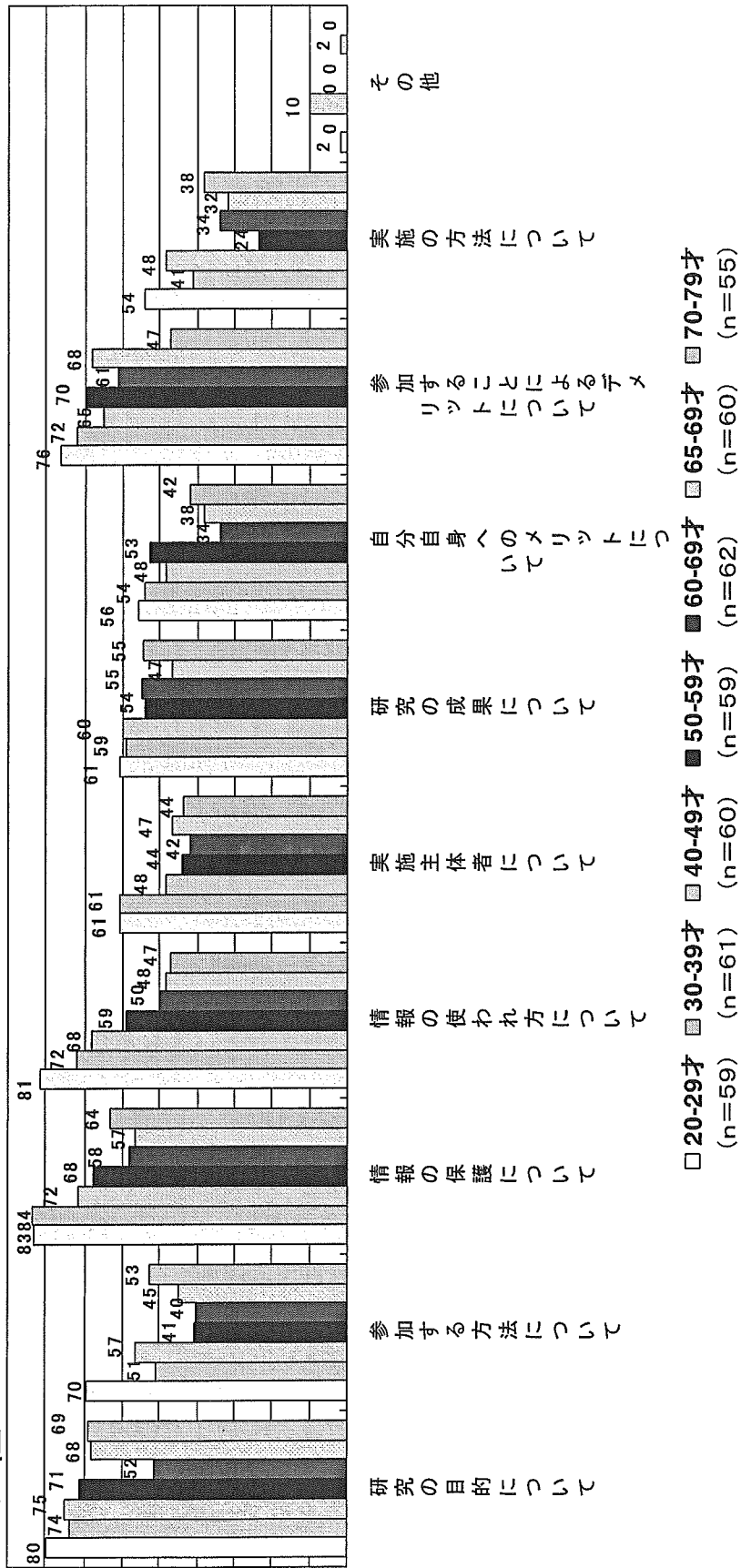
男性



20-29才 (n=57)
 30-39才 (n=56)
 40-49才 (n=53)
 50-59才 (n=52)
 60-69才 (n=58)
 65-69才 (n=56)
 70-79才 (n=63)

Q22 今後「ファーマコゲミクス」の研究に参加するためにはどんな情報 が必要ですか。(複数回答)

女性



Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧

研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Watanabe H. Kosuge K. Nishio S. Yamada H. Uchida S. Satoh H. Hayashi H. Ishizaki T. Ohashi K.	Pharmacokinetic and Pharmacodynamic interaction between simvastatin and diltiazem in patients with hypercholesterolemi a and hypertension	Life Sciences	76	281-292	2004
Nishio S. Watanabe H. Kosuge K. Uchida S. Hayashi H. Ohashi K.	Interaction between Amlodipine and Simvastatin in Patients with Hypercholesterolemi a and Hypertension	Hypertension Research	28(3)	223-227	2005
Yamada H. Tateishi M. Harada K. Ohashi T. Shimizu T. Atsumi T. Komagata Y. Iijima H. Komiyama K. Watanabe H. Hara Y. Ohashi K.	A Randomized Clinical Study of Tea Catechin Inhalation Effects on Methicillin-Resista nt Staphylococcus aureus in Disabled Elderly Patients	JAMDA	February	79-83	2006

内田 信也 渡邊 裕司 後藤真寿美 前田 利男 橋本 久邦 中野 眞汎 大橋 京一	HMG-CoA還元酵素阻害薬 Pravastatin服用患者におけるリスクファクターと血清脂質値に関する調査	臨床薬理	36 (2)	81-87	2005
立石 正登 田尾 義昭 高田 昇平 宮崎 正之 岩永 知秋 二宮 清 江頭 徹 米山 政男 内田 信也 大橋 京一	イソニアジドによる肝機能障害と NAT2 遺伝子多型との関連	臨床薬理	36 (Suppl)	S263	2005
Ishizawa Y. Yasui-Furukori N. Takahata T. Sasaki M. Tateishi T.	The effect of aging on the relationship between the cytochrome P450 2C19 genotype and omeprazole pharmacokinetics	Clin Pharmacokinet	44 (11)	1179-89	2005
Nomoto M. Nagai M.	Proteasome Function and Pathological Proteins in the Pathogenesis of Parkinson's Disease	Journal of Pharmacological Sciences	97	455-456	2005
Nakatsuka A. Nagai M. Yabe H. Nishikawa N. Nomura T. Moritoyo H. Moritoyo T. Nomoto M.	Effect of clarithromycin on the Pharmacokinetics of cabergoline in healthy controls and in patients with Parkinson's Disease	Journal of Pharmacological Sciences	100	59-64	2006